「JAPAN PACK 2027 日本包装産業展」

次世代共創エリア
『研究成果発表プロジェクト』参加校募集のご案内

◆◇◆　ポイント　◆◇◆



何ができる？

日頃取り組んでいる研究・活動の成果を、学生自ら企業に発信できます。
企業との出会いを通じて、研究の社会実装や新たな可能性につながる気づきが得られます。



誰と出会える？

食品・飲料・医薬品・化粧品・日用品など、私たちの暮らしを支える幅広い分野の
企業と出会えます。
例）味の素、日清食品、明治、森永製菓、武田薬品工業、大塚製薬、資生堂、花王、ライオン、
イオン、セブン＆アイHD、アマゾン、三井物産、三菱商事、TOPPAN、DNP etc.



何が必要？

必要なのは、自分の研究・活動を企業に伝えてみたいという意欲です。**参加費は無料**です。

『研究成果発表プロジェクト』企画趣旨

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

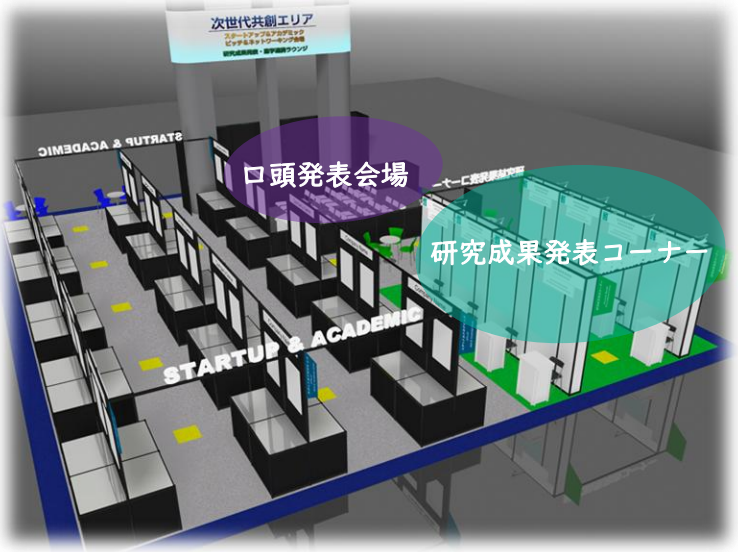
趣　旨

本プロジェクトは、学生の皆さまが日頃取り組まれている研究・活動の成果を、食品・飲料・医薬品・化粧品・日用品・工業製品など、幅広い分野の企業来場者に向けて発信し、学習意欲の向上や社会実装に向けた新たな可能性など、様々な気づきを得る機会を創出することを趣旨としております。

研究・活動の成果を展示する「研究成果発表コーナー」や「口頭発表」をはじめ、業界関係者との「パネルディスカッション」や「ネットワーキング」、実際の出展ブースを巡る「包装業界見学ツアー」など、多彩なプログラムを実施予定です。また、今回新たに、優れた研究・発表を表彰する制度も設ける予定です。

今回は、スタートアップやアカデミアをはじめ、多様な分野・世代・業種のプレーヤーが集い、新たなつながりや価値の創出を目指す共創空間「次世代共創エリア」を設け、その構成企画の一つとして「研究成果発表コーナー」を開設いたします。

これまでの研究・活動の集大成として成果を発信するとともに、企業や異分野の方々との交流を通じて新たな気づきや可能性を見いだす機会として、ご参画いただけますと幸いです。



＜次世代共創エリアイメージ＞

『研究成果発表プロジェクト』全体構成

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

５つの企画

１．研究成果発表コーナー
学生が会場内の特設ブースにてポスターやPC、実物等を用いて研究成果を展示します。

２．口頭発表
学生が特設発表会場にて研究成果を展示会来場者に向けて発表します。

３．パネルディスカッション
学生と包装業界関係者が研究成果を切り口に日本の未来について特設ステージにて
意見を交わします。

４．ネットワーキング
学生・教職員と包装業界関係者が、今後の連携につながるよう交流会を開催いたします。

５．包装業界見学ツアー
ガイダンス、出展者ブース巡回ツアーに参加いただき、包装業界への理解を深めます。







１．研究成果発表コーナー企画①

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

実施概要

- 実施期間　2027年10月6日(水) ～ 8日(金) 10：00～17：00　※会期中3日間
- 会　場　東京ビッグサイト東展示棟「次世代共創エリア」内
  所在地：東京都江東区有明3-10-1(〒135-0063)
- 概　要　食品・飲料・医薬品・化粧品・日用品・工業製品など、あらゆる製品のライフサイクル「つくる・包む・届ける・つかう・循環させる」に関する常日頃の研究・活動に関して、学生自らがポスター(任意形式)やPC、実物などを用いて、各ブースで企業来場者に説明する



＜研究成果発表コーナーイメージ＞

Ⅰ．研究成果発表コーナー企画②

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

４つのテーマ

テーマⅠ【人と暮らし】　～暮らしと社会をより豊かに、よりスマートに～

⇒人口減少や超高齢社会にともなう労働力不足･属人化の解消、技術伝承、働き方改革、
ウェルビーイングなどにつながる研究･活動

テーマ２【地球の未来】　～環境と資源の未来を、もっとサステナブルに～

⇒地球温暖化や自然災害の多発にともなう省エネ・省資源、廃棄ロス削減、資源循環、
カーボンニュートラルなどにつながる研究･活動

テーマ３【広がる自動化】　～未来に向けたものづくりに挑戦～

⇒センサー･AI･ロボット･制御･IoT･自動化など、機械･電気･情報分野の技術を活用し、
ものづくりや産業の進化、生産性の向上などにつながる研究･活動

テーマ４【見えない脅威】　～便利さを支える情報活用と、安全を守る情報セキュリティ～

⇒情報活用の進展にともなうサイバー攻撃や情報漏えい、不正アクセスなどのリスクに対し、
企業の安全確保や危機管理、社会インフラ・暮らしの安心につながる研究･活動

例）AI･生成AI、IoT、ロボティクス、センサー、制御技術、画像認識、自動化･省人化、情報保護、
サイバーセキュリティ、認証技術、監視･異常検知、新素材･代替素材、環境配慮設計、省エネ･省資源、
3R+ Renewable、資源循環、食品ロス削減、カーボンニュートラル etc.

Ⅰ．研究成果発表コーナー企画③

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

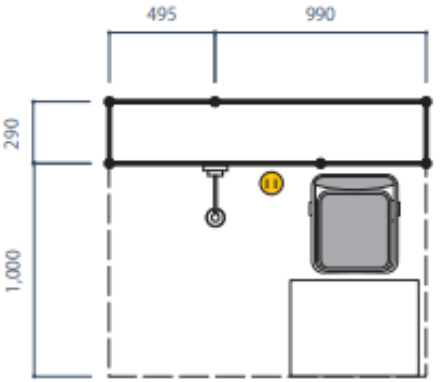
ブース仕様

- ポスター／パネル貼り付け壁面
  約W990mm×約H1,200mm〔最大A0サイズ×1枚程度のポスター／パネルが掲出可〕
  ※ポスター／パネルだけではなく、カウンターにPCや実物を置き、説明することも可

- 基本備品
  教育機関・研究室名板×1枚、研究テーマ板×1枚、
  収納付きカウンター(W600×D450)×1台、LEDライト×1灯、
  2口電源コンセント(100V)×1個、椅子×1脚



＜立面図＞



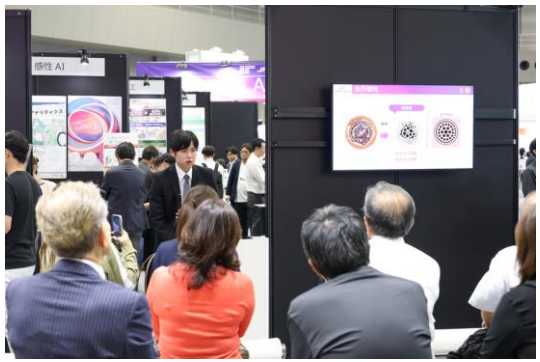
＜平面図＞

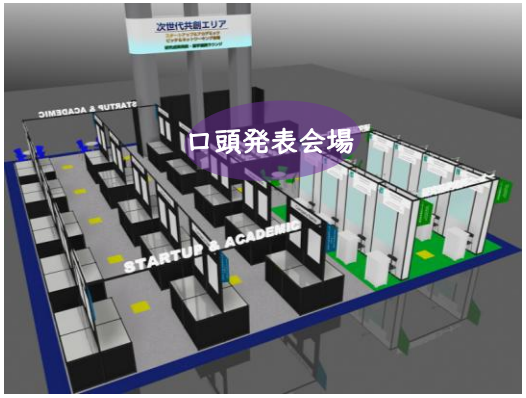
2．口頭発表【希望者】

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

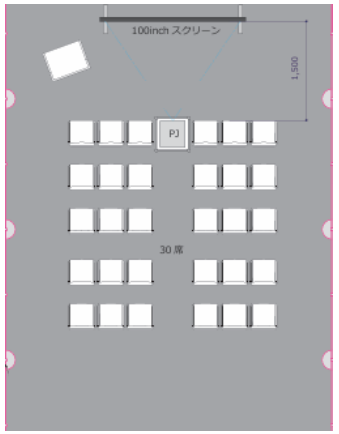
実施概要

- 実施日　2027年10月6日(水)～8日(金)のいずれか１日
- 会　場　東京ビッグサイト東展示棟「次世代共創エリア」内 (30名規模)
  所在地：東京都江東区有明3-10-1(〒135-0063)
- 概　要　研究成果発表コーナーに展示している研究・活動内容について、学生がその成果や可能性について、エリア内の特設会場で約10分間のショートプレゼンテーションを行う。
- 発表対象　研究成果発表コーナー参加校の学生（希望制）
- 備　考　原則ＰＣを使用し、PowerPointやPDF等で発表を行う。
  発表会場、PC、その他機材は主催者にて手配。


＜前回展の口頭発表＞



＜口頭発表会場イメージ＞



＜口頭発表会場内イメージ＞

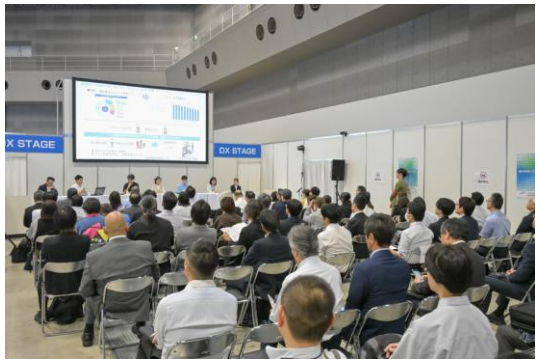
3．パネルディスカッション【希望者】

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

実施概要

- 実施日　2027年10月6日(水)～8日(金)のいずれか１日　※60分程度
- 会　場　東京ビッグサイト東展示棟内 (150名規模)
- 概　要　学生数名と包装業界関係者が、学生の研究・活動の成果を切り口に、
  包装技術や産業の可能性、日本の未来についてステージ上で意見を交わす。
- 登壇対象　研究成果発表コーナー参加校の学生 (希望制)
  日本包装機械工業会メンバー (役員、産学連携WG、青年部会) 等
- 備　考　全体シナリオは事務局にて作成。
  事前打ち合わせをオンラインにて実施予定。







＜前回展のパネルディスカッション＞

4．ネットワーキング【希望者】

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

実施概要

- 実施日　2027年10月7日(木)17：00～18：30　※90分程度
- 会　場　東京ビッグサイト東展示棟内
- 概　要　学生・教職員と包装業界関係者が、研究や技術、現場の課題などを話題に、リラックスした雰囲気の中で気軽に意見を交わし、交流を深めながら、新たな連携や共創のきっかけをつくる。
  ※簡単なお食事とお飲物、協賛企業からのお土産もご用意 (参加費無料)
- 参加対象　研究成果発表コーナー参加校の学生・教職員 (希望制)
  日本包装機械工業会メンバー (役員、産学連携WG、青年部会) 等





＜前回展のネットワーキング＞

5．包装業界見学ツアー【希望者】

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

実施概要

- 実施日　2027年10月6日(水)～8日(金) 1日1回(90分)・会期3日間実施
- 会　場　東京ビッグサイト東展示棟内
- 概　要　包装業界ガイダンスを受け、その後学んだ知識をもとに、
  実際の包装関連機器や包材・容器を取り扱うブースを見て巡り、
  様々な角度から包装業界を体感する。
  ※協賛企業の取扱製品“お楽しみ袋”を全員にプレゼント
- 参加対象　教育研究機関の学生・教職員 など (希望制 ※各回20名程度)
  ※研究成果発表プロジェクトに参加していない教育研究機関含む






＜前回展の包装業界見学ツアー＞

『研究成果発表プロジェクト』参加ベネフィットと前回実績①

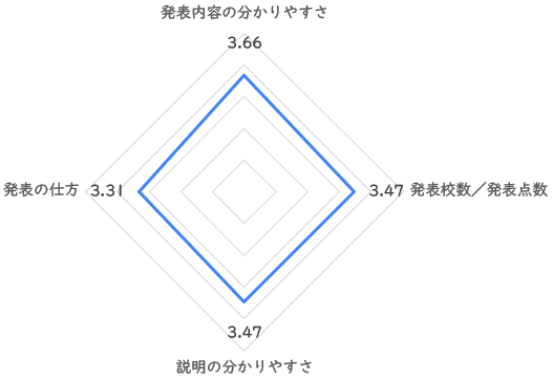
5つの参加ベネフィット

- 研究・活動の成果の発信と認知度向上
- 企業との交流・産学連携の促進
- 新たな気づきによる研究・学びの発展
- 産業理解の促進と将来の可能性の拡大
- 発表・交流を通じた人材育成とネットワーク形成

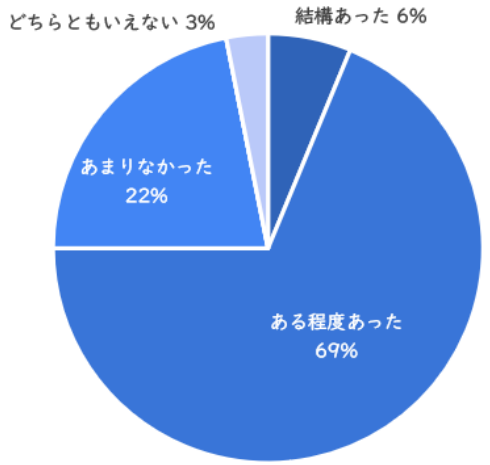
数字で見る前回実績

- 研究成果発表コーナー参加校　：12校・13パネル
  訪問者数　：632名(4日間)
- 口頭発表参加校　：8校・9名
  ※オープン会場のため、聴講者数は集計対象外
- パネルディスカッション参加校　：5校・5名
  聴講者数　：114名
- ネットワーキング参加者　：34名
- 包装業界見学ツアー参加者　：62名(4日間)

来場者：評価



来場者：研究への興味関心



『研究成果発表プロジェクト』前回実績② ～参加者の声～

来場者の声

イノベーションの種はどこに転がっているか分からないため、
これからも意欲的な内容の研究を期待している

来場者を迎える姿勢や立ち方、声のかけ方など、
もう少し工夫したほうがよい

弊社業務との関連性や将来性があれば喜んで投資する

もっと積極的に来訪者に声をかけていった方がよい

参加校の声

多くの企業の方に関心を示していただき、
学生のモチベーションや大学のプレゼンス向上に繋がった

研究とビジネスを繋げるにはもう少しアイデアが必要

社会・産業界の中で、研究テーマの見え方、
学生自身の習熟度が体感できる良い機会になった

研究とはいえ、来場者層との分野の違いが、若干気になった

包装業界や業界に所属する企業を知る良い機会となった

『研究成果発表プロジェクト』前回実績③ ～参加校と研究テーマ～

人と暮らし People and Lifstyle

❶ 愛知県立大学 情報科学部 神谷幸宏研究室
「最新データ解析技術を用いた機械・設備の予兆保全技術」
当研究室で開発した新しいデータ解析法「ARS」を応用し、機械の予兆保全や生体信号処理などに取り組んでいます。今回は機械の予兆保全に焦点をあて、これまでベテランの耳や手に頼っていた機械の故障検出や調整を自動化する可能性について発表します。

❷ 金沢工業大学 メディア情報学部 伏島研究室／渡邊研究室
「悩みの開示に対するAIチャットボットの共感的反応が気分状態に及ぼす影響」
本研究では、AIチャットボットに悩みを開示した際、AIチャットボットの共感的反応の高低によって、開示者の気分改善効果に差が生じるかを検討した。結果、共感の高低に関係なく同程度の気分改善が見られた。よって、AIチャットボットへの悩みの開示の気分改善は、共感の程度でなく開示自体によって生じることが示唆された。

❸ 星城大学 経営学部 戦略的マーケティング研究室 高嶋ゼミ
「包装資材の工夫による外食産業の人手不足改善策の提案」
食は人と暮らしに欠かせない存在であるにもかかわらず、外食産業は人手不足が深刻化している。本研究では、作業の大変さ・外食産業の魅力の低さ・福利厚生の弱さの3点から原因を探るとともに、今回は包装資材の観点からの改善策も導く。外食産業の業界に働きやすい環境を作り出すことで人手不足の軽減を目指す。

❹ 東京電機大学 理工学部 生産工学研究室
「質量選別機の動的挙動解析」
食品、包装、運輸などの産業界では、作業効率の向上を目指し、コンベア上を移動する搬送物の高速, 高精度での質量測定が求められており、この実現には質量選別機を用いた連続秤量が必要不可欠である。本研究では、質量選別機の数式モデルと動的挙動について紹介する。

❺ 日本女子大学 食品学・食品包装学研究室
「大学教育としての食品包装研究」
2023年4月に誕生した当研究室は、食品の化学的あるいは物理的変化による劣化を防止するための包装設計に関する研究に生活科学の視点から取り組んでいる。本発表では、これまでの研究成果のうち、お菓子の損傷防止設計および青果物の品質保持設計、ならびに包装と食品ロスの関係評価について紹介する。

❻ 日本大学 理工学部 細野・関研究室
「人工ニューラルネットワーク型薬物動態解析モデルの開発」
医薬品開発や臨床の現場では、患者ごとに、安全かつ十分な薬効を実現するために至適投与設計が重要である。投与設計のためには、体内での経時的な薬の動き、薬物動態の予測が必要である。本研究では、薬物動態解析の一部を人工ニューラルネットワークで実現し、高精度に薬物血中濃度を予測するモデルを開発した。

地球の未来 The Future of the Earth

❼❽ 埼玉大学 経済学部 有賀ゼミナール
「生物多様性の認知度向上に向けて」
若年層の情報発信力と創造性を活かし、大学生が主体となってSNSや動画配信などのデジタルメディアといった方法を用いて生物多様性の重要性を発信する取り組みを提案する。身近な自然とのふれあいや外来種問題をわかりやすく紹介することで、認知度の低い30～50代にも関心を広げ、生物多様性保全への理解と行動を促すための提言を行う。

「レジ袋の使用についての年代別比較」
レジ袋の有料化はプラスチックの使用を抑制するために導入されたが、現在もレジ袋を購入して買い物をする人は多い。本研究ではレジ袋購入に関する意識調査を実施し、レジ袋の購入を始めとして消費者がプラスチック包装の削減にどの程度意欲的かを年代別に分析し、消費者の年代ごとの環境意識について調査する。

❾ 群馬大学 環境調和型材料科学研究室
「海洋生分解性プラスチックの開発」
微生物などの働きによって最終的に水と二酸化炭素に分解される生分解性プラスチック。使用中は一定の特性を保ったうえで、海洋へ流出後でも完全生分解するプラスチックの研究開発を行っている。国内外の沿岸～外洋、さらには深海底における分解性試験を行い、海洋ゴミ問題の解決を目指している。

❿ 十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発研究室
「規格外野菜を有効活用した食品開発～大学を通した6次産業化の推進～」
農業の6次産業化において、収入増加に繋がる成功事例は少なく、この原因に「加工の知識不足」が挙げられる。本研究は、この課題を科学的知見で解決し、6次産業化の推進に貢献することを目的とする。実際には、規格外（廃棄品）となった野菜の価値を科学的視点から創出し、他の商品と差別化ができる商品開発を行う。

⓫ 大東文化大学 社会学部 八木原研究室
「ゴミ削減と循環型社会の必要性」
本研究は、埼玉県東松山市を対象に、包装紙削減の実践とごみ処理インフラの再設計の可能性を検討し、先進自治体との比較を通じて中規模都市における循環型社会構築のための課題と政策的方向性を明らかにするものである。

⓬ 明治大学 高分子科学研究所
「PPWRとINCに対応したコンポスト可能なバイオプラスチック包装」
EU（欧州連合）のPPWR（包装及び包装廃棄物規則）や国際的な取り組みのINC（プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた政府間交渉委員会）等に対応したコンポスト可能なプラスチック包装について、主に天然高分子材料を用いた当研究所の取り組みを紹介する。

⓭ 山口東京理科大学 工学部 結城研究室
「省エネルギー社会へ貢献する高性能ヒートシンクの開発」
2050年におけるカーボンニュートラルを達成するためには、ベース電源の確保はもとより、省エネルギー技術の発展と普及が急務の課題である。特にエネルギー利用効率に大きく影響する各産業分野で導入されている熱交換器やヒートシンクの高性能化はその最たる例である。本研究では、爆発圧着技術を応用して製作されたポーラス銅管を用いたヒートシンクの冷却性能について紹介する。本技術は、小型定流量型の熱交換器開発や包装機の熱プレス技術、更には未来のエネルギー源である核融合炉のヒートシンクとしても応用が期待されている。

『研究成果発表プロジェクト』参加条件・申込方法

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

参加条件

- 日本国内の大学や高専、専門学校等の教育機関に所属し、研究やそれに付随する活動を行っている学生で、かつ所属する教育機関より了承を得たものが会期中の3日間、説明員として可能な限り常駐すること
- 学年や年齢、学部学科、参加人数は問わない
- 教職員は学生の補助的な役割となり、学生主体の発表となるよう心掛けること

お申込み

- 申込方法　別紙「申込書」に必要事項を記入のうえ、産学連携事務局(担当：森山、佐藤)まで E-mail(sangaku@jpmma.or.jp)にてご送付ください。
- 申込期限　**2027年4月16日(金)**
- 定　数
  1．研究成果発表コーナー：　16研究タイトル
  2．口頭発表：　10名程度
  3．パネルディスカッション：　5名程度
  4．ネットワーキング：　定数なし
  5．包装業界見学ツアー：　1日1回・各回15名程度
  ※いずれも定数になり次第、受付終了
- 参加費　不　要
  ※ポスター／パネル／各種データ制作費、運搬費、交通費、会期中の昼食以外の滞在にかかる費用(食事、宿泊等)は各自負担となります。
- 備　考　ブースの位置・発表順は、申込内容などを勘案のうえ、主催者にて決定いたします。
  申込締切日(4月16日)以降のキャンセルは原則できかねます。

今後のスケジュール(予定)

想いをそのまま。
日本包装機械工業会

《2026年》

11月上旬	参加校募集開始

《2027年》

4月16日(金)	**募集〆切**
5月上旬～中旬	事務局より参加全校へご連絡 －参加校一覧、スケジュール、来場予定日確認 etc 事務局より希望参加校へご連絡 －口頭発表およびパネルディスカッション内容の確認 etc
6月11日(金)	口頭発表「内容確認シート」ご提出期限
7月上旬	来場事前登録開始
7月下旬～8月上旬	パネルディスカッション打合せ
9月上旬	セミナー聴講事前登録開始
10月5日(火)	搬入・設営
10月6日(水)～8日(金)	**JAPAN PACK 2027会期**
10月8日(金) 17:00 ～9日(土) 9:00	撤去・搬出

・各種出展準備
～ポスター制作
口頭発表 etc. ～

ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ －日本包装産業展－ について

ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ -日本包装産業展- について

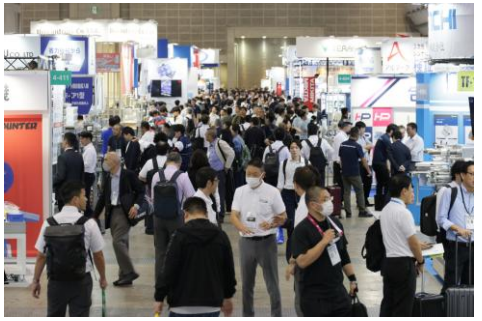
JAPAN PACK とは…

食品・飲料・医薬品・化粧品・日用品・工業製品など、あらゆる製品のライフサイクル
「つくる・包む・届ける・つかう・循環させる」における技術課題を、
“包む起点”で解決する“包装産業展示会”です。



JAPAN PACK 2027 開催概要

- 会　期　2027年10月6日(水)～8日(金) 10:00 ～ 17:00
- 会　場　東京ビッグサイト 東展示棟
  東京都江東区有明3-10-1（〒135-0063）
- テーマ　BEYOND｜グリーンで包む スマートで創る
  Pack Green. Create Smart.
- 来場対象　食品関係、医薬･化粧品関係、鉄鋼･自動車･輸送機器関係、
  繊維･文具関係、流通･サービス･商社･情報機器･
  ソフトウェア関係、包装資材･印刷･受託包装関係、
  機械･機械部品･ロボット関係、設備･建築関係、
  官公庁･団体･学校関係、一般･個人、報道関係



- 展示規模計画　560社・団体／2,100小間
- 来場規模計画　40,000人／3日間

ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ 来場者について①

前回展(JAPAN PACK 2025)来場《業種》別割合

食品・飲料 18.7%	医薬・化粧品 日用品・化学品 11.3%	繊維・雑貨 文具 1.4%	鉄鋼・電気 輸送機器 3.3%	**小売・流通 サービス** 16.9%
機械・機器部品 ロボット 12.5%	**包装材料 容器・印刷** 23.8%	情報機器 ソフトウェア 0.9%	プラント エンジニアリング 1.3%	
官公庁・団体 関連機関 0.6%	一般・個人 0.3%	学 生 0.6%	報 道 0.9%	その他 7.6%

主な来場企業

《食　品》
味の素、ネスレ日本、明治、敷島製パン、日本ハム、永谷園
日清食品、日清製粉、森永製菓、山崎製パン、江崎グリコ etc.

《医薬･化粧品･日用品》
武田薬品工業、アステラス製薬、第一三共、大塚製薬、資生堂
ライオン、花王、コーセー、ピジョン、エステー、P&G etc.

《小売･流通･サービス》
Amazon、セブン＆アイ、ローソン、ライフ、イオン、ASKUL
三井物産、三菱商事、丸紅、伊藤忠、サイゼリヤ、ゼンショー etc.

《包装材料･容器･印刷》
TOPPAN、大日本印刷、東洋製罐、カナオカ、ZACROS、
王子、DIC、日本製紙、レンゴー、エフピコ、吉野工業所 etc.

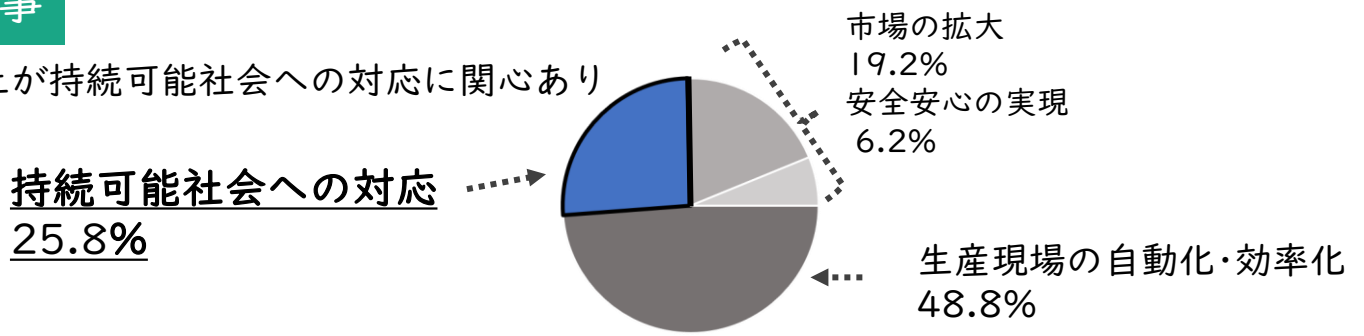
ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ 来場者について②

前回展(JAPAN PACK 2025)来場《所属部門》別割合

代表者・役員 10.1%	**販売・ 営業部門 36.4%**	**製造・ 生産部門 16.8%**	調達・購買部門 3.7%
生産管理・ 品質管理部門 4.2%	**技術・ 研究開発部門 17.0%**	総務部門 1.0%	人事・労務部門 0.4%
経理・財務部門 0.5%	情報システム部門 0.3%	企画・広報・ マーケティング部門 6.5%	その他 3.1%

来場者の関心事

- 全体の1/4以上が持続可能社会への対応に関心あり



ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ ２０２７展示コンセプト①

５つの展示コンセプト



包装×デジタル技術で実現するサプライチェーンのDX推進
―次世代の包装・生産システムを提案する展示・交流の場を創出―

デジタル技術やロボティクス、データ連携・標準化を活用し、生産現場の高度化からサプライチェーン全体の最適化までを推進。食品・医薬・化粧品など多様な業界課題に応える、次世代包装・スマートファクトリー技術を展開します。

【包装×DX 関連企画】 ●特別展示企画 ●ソリューションライブラリ（仮） ●ステージ：基調／特別講演・専門セミナーなど ●特別セッション ●見どころツアー ●IoT WG企画

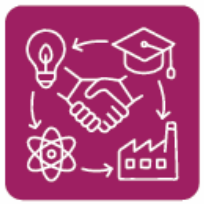


サステナビリティと社会価値創出を推進するGX提案
―環境配慮と産業競争力を両立する最前線と未来を提示―

資源循環を軸に、材料・設計・生産プロセスの革新を推進。軽量化・減容化・省エネルギー化による脱炭素と、ライフサイクル視点での包装最適化を通じ、新たな価値創出につながるGX技術・素材を展開します。

【包装×GX 関連企画】 ●ソリューションライブラリ（仮） ●ステージ：基調／特別講演・専門セミナーなど ●特別セッション ●見どころツアー ●包装ライフサイクルコーナー ●CLOMAパビリオン

ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ ２０２７展示コンセプト②



次世代領域との共創による新技術の社会実装・事業創出
―スタートアップ・アカデミック・次世代技術と既存産業をつなぐ交流の場を創出―

次世代技術や新たな発想を持つスタートアップをはじめ、大学・研究機関等による研究成果、既存産業との共創による技術実証・社会実装など、包装産業の未来を切り拓く新たな技術・サービスを展開します。

【次世代共創関連企画】 ●次世代共創エリア【スタートアップ&アカデミックゾーン／学生による研究成果発表コーナー／産学連携ラウンジ／東京工科大学デザイン学部との共同研究成果展示／機電系学生による研究・技術 など】 ●研究成果パネルディスカッション／情報交換会 ●包装業界見学ツアー



海外企業・団体や専門家の参画を通じた国際交流・海外展開促進
―海外市場・技術情報の共有と国際連携強化による海外展開支援―

海外市場の最新動向や先進技術を共有するとともに、国内外企業・関連団体・関係機関との交流を促進。国際的なビジネスマッチングやパートナーシップ構築を通じ、新たな販路開拓や海外市場への製品・サービス展開につながる機会を創出します。



日本包装機械工業会の各事業活動発信による業界動向の提供
―主催者の取り組みを通じて包装産業の最新動向や将来展望を提示―

日本包装機械工業会の事業活動や取り組みを紹介するとともに、包装関連の最新技術・市場トレンドを発信。国内外の関係団体・機関との連携や、ネットワーキングを通じ、包装産業のさらなる発展と新たな価値創出につなげます。

ＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ ２０２７ 併催企画(予定)

特別展示企画

- 包装×ＤＸ特別展示コーナー
- 包装×ＤＸ・包装×ＧＸソリューションライブラリ
- 包装ライフサイクルコーナー
- CLOMAパビリオン
- 次世代共創エリア(スタートアップ・アカデミック・研究成果発表 etc.)



ステージ企画

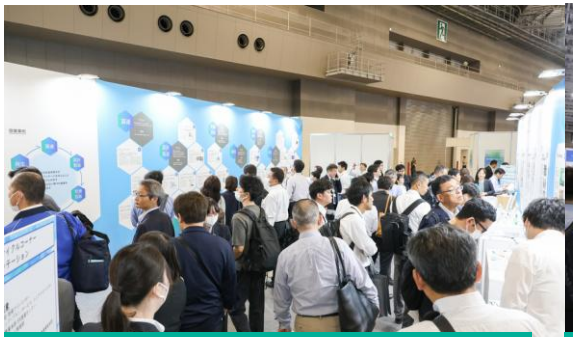
- 基調／特別講演
- JAPAN PACKセミナー・特別セッション・CLOMAプレゼン etc.
- パネルディスカッション
- 見どころツアー・包装業界見学ツアー



日本包装機械工業会 委員会企画

- 技術関連企画 (JAPAN PACK AWARDS 2027〔表彰式・受賞製品展示〕、包装相談コーナー etc.)
- IoT WG企画 (JPack-Fmt企画展示、企画セミナー etc.)
- 産学連携WG企画 (研究成果発表プロジェクト、包装業界見学ツアー、産学連携ラウンジ、
  東京工科大学デザイン学部共同研究成果展示 etc.)

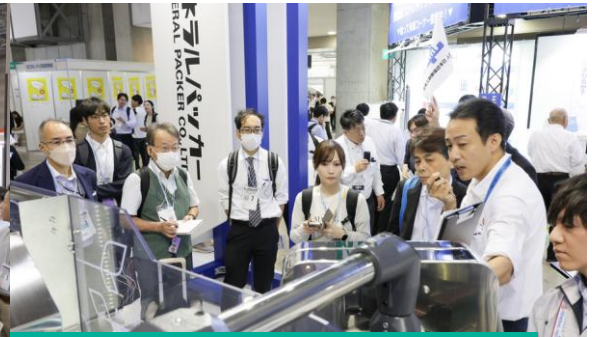
参考：前回展(JAPAN PACK 2025)実績 併催企画



包装ライフサイクルコーナー



CLOMAパビリオン



会場巡回ツアー



包装×DX・包装×GXコーナー



JAPAN PACK AWARDS



スタートアップ&アカデミックエリア



研究成果発表コーナー



特別講演



CLOMAパネルディスカッション

主催者：日本包装機械工業会について

主催者：日本包装機械工業会について

- 名　称　一般社団法人 日本包装機械工業会（ＪＰＭＡ）
  Japan Packaging Machinery Manufacturers Association
- Ｈ　Ｐ　https://www.jpmma.or.jp/
- 所在地　東京都中央区新川2－5－6 包装機械会館
- 設立経緯　１９６７年（昭和４２年）　１月１６日 … 任意団体創立
  １９６８年（昭和４３年）１２月２３日 … 社団法人化
  ２０１２年（平成２４年）　４月　１日 … 一般社団法人移行
- 会員数　２５９社団体　※2026年4月時点
  （正会員 … １４４　／　賛助会員 … １１５）
- 会　長　伊早坂　嗣
- 事業活動　広報推進事業 … デジタル情報機関誌「Ｐ＆Ｍ通信」、各種セミナー 等
  国際交流事業 … ProPak Asia日本パビリオン、
  海外展示会(interpack、PACK EXPO International)視察団 等
  人材育成事業 … 包装学校、青年部会、産学連携活動 等
  技術関連事業 … 包装システム標準化フォーマットJPack-Fmt、
  ISO国内審議委員会・国際会議 等
  調査情報事業 … 包装機械及び荷造り機械生産高･輸出入統計資料 等
  展示会事業　… JAPAN PACK －日本包装産業展－の開催 等

－お問合せ先－

(一社)日本包装機械工業会　産学連携事務局 (担当：森山、佐藤)

所在地：東京都中央区新川2-5-6 包装機械会館3階 (〒104-0033)

ＴＥＬ：03-6222-2277　/　E-mail：sangaku@jpmma.or.jp

Ｗｅｂ「包装業界を知る」：https://www.jpmma-package.jp/